

# けんしゅう だより ①

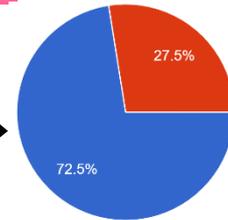
中央中等教育学校 授業研究・FEWC 推進部  
学年研修①第1号 令和5年6月14日発行

\*第1回公開研究授業(5月18日実施)後の学年別グループ協議・アンケートを元に作成しています。(回答数40名。ご協力ありがとうございました。)  
\*スペースの都合上、複数のご意見をあわせたり、編集させていただいたりした部分がございます。

## 1. 探究的で創造的な課題設定

Q.今年度 4月～5月の間、探究的で創造的な課題を設定した授業を実施されましたか？

実施した  
72.5%  
(昨年 74.5%)



して  
いない  
27.5%

### 「ある」

#### 設定した課題

- ・歴史総合において、章や単元を貫く問いを考え、それを念頭におき、項目ごとの問いに答えてもらった。
- ・個々で教科書の本文を読み、その際語句等についても、自分の力を把握して行い、形式段落に小見出しを付け、スプレッドシートに入力し、学年のすべての生徒の小見出しを参考に、自分のものを良いものに遂行する授業。
- ・答えが一つに絞られない課題
- ・三角比を用いた測量体験をする授業で実施した。
- ・単元を貫く問いを、旅行プランを相手に紹介するにはどうすれば良いか、とした。また既習事項と合わせて、I want to～等も含ませることで旅行プランに自分の思いものをせることを目指した。授業としては単元の最初に試しの活動として、現状できる精一杯の紹介動画を撮影し、単元の最後にスライドを作成して、自分で考えた旅行プランを発表するという流れにしてみた。
- ・web アプリを使い生徒同士の関わりをもちながら、音取りを行う。
- ・身の回りにあるものを別のものに捉え、それを詩で表す活動を行った。詩を作成する際は、詩の下書きの段階で友達同士で助言しあい、表現技法を入れたらどうなるか一緒に考えてみたり、友達の質問に答えることで考えを深めたりしたあとに詩の清書を行った。
- ・自分の行きたい国についてのスピーチという課題設定。
- ・通常の授業の中で扱う問題に加えて少し分野を横断させるような問題を課した。

#### 課題に取り組む生徒の様子

- ⇒知識を問うものではないので、生徒は盛んに問いを互いに投げかけていた。各班で司会者的な人物も自然に現れるようになり、班全体が授業に参加している。
- ⇒生徒の表面上の取り組みの様子は、積極的で概ね良好に見えるが、馴れによる思考の浅さが昨今は気になっている。
- ⇒グループで周囲の考えを取り入れながら思考を巡らせる生徒の姿が多く見られました。一部、特性のある生徒なのか、自分の考えと違う他者の考えを否定するような生徒も見られました。自信の表れなのかかもしれませんが、授業者全員が周囲の考えの聴き方を教えていく必要があると感じました。
- ⇒どこの距離がわかっているか測ることができるのかを考えたが、割とすぐに方法は理解していた。どんな状況でどの三角比が有効化を議論することができた。
- ⇒will や be going to のニュアンスの違いを自分で判断し、自分で効果的に使用する姿が見られた。友達と共有する時間も積極的に設け、査読等をさせることで正確性についても高めあうことができたように感じる。
- ⇒生徒は鍵盤楽器アプリに興味を持ちながら、他の生徒と協働して課題に取り組んでいた。
- ⇒生徒は国語便覧を使用して他の詩を分析して発想の手助けをしたり、友だちと話すことによって表現の仕方を工夫できるようになったりして、とても意欲的に取り組んでいた。詩の作成だけでなく、詩の鑑賞にも繋がったようであった。
- ⇒生徒は計4回の動画を撮る中で、新たに学習した文法を適切に使いながら未来の旅行計画について情報を収集し、お互いの動画や原稿を見合って内容をブラッシュアップしながら進め、最終的には1回目よりも文量の多さやスピーチのスムーズさを実感することができたようだった。
- ⇒生徒が必要を感じていつも話す人と違う人に聞きに行っていた。結果新しい化学変化が生まれた。

## 2. 学年別協議

### 1学年 武井 康博 先生 音楽

#### ①探究的で創造的な課題設定について

- ・「きれいにハモるためにどんな工夫をしたか」という問いを投げかけるとよかった。自分の工夫を振り返る機会をつくる。
  - ・先生が話す場面で生徒が発言や活動を止めてしっかり聞いていた。その習慣化で意識していることは？  
→音に集中させるために、生徒それぞれに役割を与えて行わせる。さらに活動の後でアドバイスをさせることを予告することで、目的意識をもって聞いていた。
- 英語：テンポよく行う。長い活動はステップごとに時間を区切って行う。

#### ②生徒に協働で追求させる授業展開について(特定の生徒の様子も)

- ・ペアでのアドバイスの後、先生が全体に広げていたため、生徒が全体に伝えていいんだという雰囲気があった。
- ・アプリを活用することで、生徒が各自で一斉に音取りの活動ができた。
- ・意見の軌道修正の仕方。意見を複数きいて比較等しながら、よりよいものを生徒に考えさせていく。
- ・男女別の席からパートごとに席を交換した。隣が同性の方が声が出やすいため、はじめは男女別の席で行った。

### 2学年 高橋 昌宏 先生 数学

#### ①探究的で創造的な課題設定について

- ・三角形の合同条件…直角三角形に結びつけるとわかりにくい、できない
- ・一回「できない」を経験させる。斜辺の存在に気づかせ正三角形や二等辺三角形に発展させる。
- ・熟考するのではなく、テンポを大切にスピーディーに進める。
- ・公式などは単純に教え込むのではなく、生徒に考えさせる、インパクトのある課題設定になるようにしている。

#### ②生徒に協働で追求させる授業展開について(特定の生徒の様子も)

- ・日頃から生徒同士が相談している姿が見られている。
- ・実態として静かなクラス、それでも周りの子に聞きながら考えられていた。
- ・協働による深め合いがあった。
- ・スライドを見ながら、スムーズに進んでいた。NさんがKさんに聞きながら考えていた。ヒントを得ながら考える流れができていた。
- ・既習事項を活かしながら考える姿が見られた。そのような課題設定になっていた。
- ・自分たちの力でなんとかしようとする意欲も見えた。
- ・数学的な言葉が出てこなくても、自身の言葉で表現しようとする意欲も見られた。
- ・「できない」という状態からのスタート。

### 3学年 坂上 瑞歩 先生 技術

#### ①探究的で創造的な課題設定について

- ・グループを横断させながら意見を出させたことで、深みが出た。ルーブリックを見ていると、第三段階に進んでいるなという印象。探究という点で深まったと言える。
  - ・着目点をしっかりと見つけて、それについて活動させることで、バラバラにならずにできた。生徒自ら軌道修正しながら進められていた。探究的な活動ができていたと感じた。
  - ・スプレッドシートの活用方法が素晴らしかった。探究的な授業の進め方が良かった。グループでの形態で行ったときに、どのように評価をするかが難しい。どこまでを評価するかという問題。質問を投げかけるとすぐに話し合いをする学年だが、まず本文を読んでから話し合いをしてもらいたい。
  - ・社会でも似た内容も行った。個人とグループでどう変わるかを見ていたが、スプレッドシートのスライドにすると視覚的にわかりやすい。坂上先生の人間性が出ていて良い。のびのび、柔らかく。自動計算表が非常に良かった。ベースに組み立てて、発表会で活用しても良いかもしれない。グラフの動かし方も含め、技術科的な内容で良かった。
- 【坂上】スプレッドシートを先に持ってくるか後に持ってくるか迷った。技術科としてはそれぞれの良いところ悪いところを評価できれば良いと考えた。
- ・どれを重視するか、という視点が4つあったが、1つ選ばせるのではなくて複数で考えさせると新しい視点が生まれるか。

#### ②生徒に協働で追求させる授業展開について(特定の生徒の様子も)

- ・協働でやるのが重視されているが、「個」の時間がないといけな。上位は個で始まり、中位は協働でき、下位は協働にいけなため個になってしまう。今回の授業では生徒が止まっていなかった。
- 【坂上】1つ前の授業は4人1組で発電所を調べる時間だったが、それをバラして新しいグループを作った。(ジグソー的な感じ)
- ・最後の活動は「個」で良かったのではないかと。個でスプレッドシートをいじれたら面白かったのではないかと。
  - ・今回は見取りで評価するしかない内容か？全員分はできない？

→授業で投げかけたこと、考えさせたことを、テストなどで再現させる方法もある。

4学年 星野 康弘先生 家庭科

### ①探究的で創造的な課題設定について

- ・予想させる。
- ・他のグループとの交流がないのなら4種類のカードでは少ない？
- ・データの範囲を制限しても、感覚的に遠いものになってしまった。
- ・都内のアパートの値段をメインにしてもよいのでは？
- ・シミュレーションを行う。
- ・自分の将来働きたい職種について考えさせてもよいか？
- ・ICTを調べ学習に使う。(スーモ)
- ・各県の県庁の周辺など。
- ・地方や都内の額の差を考慮して、スライドを地域差で作らせてプレゼンテーションを行う。
- ・ジャムボードで予想の集約を行う。

### ②生徒に協働で追求させる授業展開について(特定の生徒の様子も)

- ・生徒がわかれば良いこと、目標は生活とお金。お金に振り回されず楽しく。
- ・お金が全てじゃないことをわかってもらう。
- ・親がやってくれている分、現実との乖離がある。→自分ごととして捉えさせる
- ・グループの作り方は大切。

5学年 善養寺 真弓先生 化学

### ①探究的で創造的な課題設定について

- ・すでに身につけた知識を実際を使って問いに対する答えにたどりつく、という適切な課題が設定されていた。難易度も適切であった。
- ・生徒の様子を見ながら適切な場面で教師から必要なヒントが出され、これをきっかけとしてさらに話し合いを深めることができていた。
- ・自分で理解したことを使い、科学的な見方を養うことができる課題が設定されていた。

### ②生徒に協働で追求させる授業展開について(特定の生徒の様子も)

- ・班ごとで問いに対する答えをスライドにまとめる活動を生徒にさせることにより、全員の生徒が活動に参加することができていた。
- ・お互いに学んだことを生徒同士が共有しながら、それらを参考に全員で考える場面を作ることができていた。
- ・chromebookの使い方がとても有効であった。作成した各班のスライドを見て、どの班のものが一番答えとして良いものなのかを生徒に投票させていた。投票することで問いに対する思考をさらに深めさせる工夫がなされていた。

6学年 古海伸陽先生 英語

### ①探究的で創造的な課題設定について

- ・テキストで学んだ知識を Re-telling で再構成する活動が土台として敷かれていたために、英語が苦手な生徒でも応用的なビデオ視聴にチャレンジすることができていた。
- ・統計に関する因果関係を考える探究的な課題設定が、YouTubeの発展的な動画教材を使うことによって、有効に授業展開に活かされていた。自分の教科の授業でも、発展的な内容の導入としてYouTubeの動画利用を検討してみたい。
- ・Retellingによる理解確認、ビデオ視聴による新たな刺激と実社会への応用へと視点を広げる今回の授業が、最後に行われる予定の「単元を貫く問い」に答えるプレゼンへと段階的につながっているという点が、素晴らしいと感じた。

### ②生徒に協働で追求させる授業展開について(特定の生徒の様子も)

- ・座席のグループ内で生徒同士が自然にうまく役割を分担して、苦手な生徒もなんとかついていけるように協力しあっている様子がみられた。それが英語でなされていることに感心した。
- ・自分の授業では個人で書かせて終わりになってしまうことが多いが、今日の授業ではジャムボードで個々の考えを見える化し、話し合いをさせ、皆で共有した上で全員で振り返りをする形になっていたのが参考になった。

